

西神楽地域づくり研究会結成以前（1993年～1996年）

1993（平成5）年

7月 「西神楽農協土づくりの会」勉強会（1回目）

「西神楽農協土づくりの会」が主催する勉強会に、日本工業大学準教授（当時専任講師）の岩隈利輝氏が招かれ、農村景観を活用した地域づくりについて講演がされた。

参加者は10名程度だったが、若い農業経営者が多く、「今後も地域づくりの指導をしてほしい」という要望が出され、引き続き勉強会を行うこととなった。（ただし、費用は出せないのボランティアでお願いすることとなった。一交通費も含めた諸経費すべて）

8月 「西神楽農協土づくりの会」勉強会（2回目）

東京農工大学教授（当時助教授）の千賀祐太郎氏も参加した勉強会となる。生態系と環境保全、英国のグラウンドワークトラストの活動、ドイツの農村景観保全事業などについて講義を受けるとともに「元氣」をもらう。

参加者も40名程に増えていった。

10月 「西神楽農協土づくりの会」勉強会（3回目）

先生たちの話を聞き、地域の農業経営者を中心に、「疲弊する農村・農業に『愚痴』を言い続けていても将来を担う後継者は生まれない。『夢』を語り、チャレンジしたい。」という気運が生まれてきた。

これらの動きに対して、行政側からも関心が寄せられ、北海道開発局旭川開発建設部は、「旭川市周辺の農村地域の活性化方策に関する検討事業」を千賀・岩隈氏に委託し、活動のバックアップを行った。

12月 「地域づくり」勉強会（4回目）

勉強会に西神楽農協の組合長も出席し、今後農協もかかわりを持つこととし、農協主導による「西神楽農業を夢見る会」が結成された。

1994（平成6）年

1月 「地域づくり」勉強会（5回目）

「地域づくり」についての本格的な議論が始まった。しかし、参加者が40名を越す状況では意見を出し合うのが難しいため、青年部会・女性部会などに分けて議論し、それぞれの意見を勉強会に持ち込むこととした。

2月 「夢民村」が結成される

青年部会の仲間が「夢民村」という組織を結成し、具体的な活動の検討を行いはじめた。

「地域づくり」勉強会（6回目）

勉強会には、岩隈・千賀両氏が出席し、青年部会（夢民村）・女性部会から意見が出され、「自分たちにできること」を話し合った。

3月 「夢民村」がパラセーリング・スノーモービルツアーを企画

夢民村主催の「パラセーリング」が開催され、30名ほどの参加者により成功裏に終わった。以降、パラセーリングの開催とスノーモービルによるツアー（就実地域の畑や森林地帯を走行する）が企画され定着して行った。

5月 ハーブ教室、フラワーアレンジ教室を開催

女性部会が、農家の自宅の周りを花で飾ることや都市との交流を考えた。

7月 地域発見バスツアー

地域住民70名が参加して、西神楽地域を見直すツアーを開催。

10月 「西神楽地域づくり研究会準備会」を結成

本格的な地域づくりについて、住民の手で実践するために勉強会参加者を中心に結成。

12月 「西神楽地域づくりシンポジウム」を開催

旭川市、北海道開発局旭川開発建設部などの後援を受けて、農業改善センターで約170名の参加で開催し、グラウンドワーク運動について千賀・岩隈両先生の講演などを受ける。

1995（平成7）年

1月 阪神大震災

千賀・岩隈両先生から災害支援（被災した子供たちの疎開受け入れなど）の呼びかけがあり、地域で受け入れ・支援の機運が広まる。

「研究会準備会」の会議で阪神大震災の“支援委員会”の結成を確認。

（2月から5月までの期間、被災地の児童23名が西神楽と美瑛にホームステイし、地域の大きな支援のもとで元気な生活をおくる。）

6月 「準備会事務所」ができる

西神楽農協の支援委より「農協社宅」に事務所を設置。

10月 （財）日本グラウンドワーク協会設立

11月 グラウンドワーク地域セミナー開催

旭川市内で、日本グラウンドワーク協会主催のセミナーが開催され、行政関係者・企業・青年会議者・西神楽地域づくり研究会準備会などが参加。

1996（平成8）年

1月 「準備会」で研究会発足の確認

4月 「西神楽地域づくり研究会」発足